

人の感情と行動パターン

ーソーシャルスタイル診断を通してー

I 研究動機

身の回りで人間関係でのトラブルを目にすることがよくある。私は、このようなトラブルの原因を人と人との感情のすれ違いであると考えた。そこで、人の感情がどのようなものであるのか気になったため、参考文献を探すと、心理学などについて書かれたものがいくつもあった。その中から文献をいくつかピックアップして、人の感情が一体どのようなものであるのか確かめようと考えた。

II 研究目的

参考文献を使用して、感情がどのようなものであるか理解し、研究をして確かめたい。そして、感情が引き起こす行動パターンを明らかにして、人と接する時や、トラブルを目にした時など、今後の日常生活で活用したい。人の感情を明確に理解し、情報を理解すれば、世界を平和に変えることになって役立つのではないかと私は考えている。

III 研究内容

調査方法は、『ソーシャルスタイル診断』アンケートに答えてもらい（図と表）にして確認する。ここでいう「ソーシャルスタイル」とは、個人の習慣化したパターンのことである。『ソーシャルスタイル診断』はソフィアヒューマン株式会社の開発したソーシャルスタイルの診断ソフトのことである。

IV 研究内容

1. 感情の定義

大江（2001）によると、感情は、個人の心の中や周囲の環境の変化に対する脳の反応で情動的起源をもつ。感情が高揚すると情動反応（身体的整理的反応）を誘発する。感情は意志や意欲・思考などの大脳前頭連合野の働きにより、情動よりも持続的な反応である。例えば、親友と喧嘩をしたとする。すると、「怒り」が沸き起こって、声が強くなったり、目が開いたり、眉が上がったりといった情動反応が起こり、嫌いという感情が生まれる。

① 感情の形式

大江（2001）によると、感情が情動と異なるのは、感情が大脳皮質における快・不快の価値感情を伴い、意志や思考の介入を受けるが、直接的には身体的生理反応を起こさないことである。例えば、「痛み」という感覚に対して、「涙が出る」という生体反応が情動、「悲しい、辛い」という思考が感情だと言える。

② 感情の分類

大江（2001）によると、感情の分類は、情動と重複する面がありながら、情動に比べてはるかに困難である。感情を肯定的感情と否定的感情、そして人間特有なものとして意志的感情を分類したものを次に示す。

肯定的感情：【一般的感情】快，充実，自由，安心，喜び，楽しみ，おかしさ等、生命活動について
【社会的感情】連帯，愛情，保護，優しさ，安全，解放等、自然や社会環境一般について
【優越的感情】優越，自信，自尊，勝利，所有，支配等、個別的対人関係について
否定的感情：【一般的感情】不快，空虚，不安，悲哀，恐怖，当惑，失望等、生命活動一般について
【社会的感情】孤独，憎悪，排除，怒り，嫉妬，閉塞等、自然や社会環境一般について
【劣等的感情】劣等，不信，自虐，敗北，軽蔑，拘束，恥辱等、個別的対人関係について
意志的感情：好奇，探究，希望，期待，意欲，信仰，義務，高揚，戦い等、主体的な困難解決について

③ 感情と言葉

大江（2001）によると、情動を伴わない通常の音声信号としての言葉は、まず知覚を通して大脳皮質に働きかけ、言葉の刺激が大脳皮質を興奮させることによって感情反応を引き起こす。例えば、先生に言葉で怒られたとする。そして怒られたことへの怒りがいっぱいになり、他人に八つ当たりしてしまったりする。これは、恋愛の場合でも、好きな人への感情がどんどん大きくなっていき、好きという感情が大好きになり、自分で抑えられなくなると告白という行動に出たりする。

④ 感情と情動反応

大江（2001）によると、情動は客観的な生理的反応を伴って自覚されるものであるのに対し、感情は客観的な大脳皮質的認知反応で、両者を完全に分離することは不可能である。恐怖や悲哀など強い情動刺激れ断のできない状態になることがある。特に皮質的コントロールの未熟な子供の場合は、皮質的な精神的受容ができず感情の次元を超えることになる。この場合は心的外傷後ストレス障害など病的傷跡を残すことがある。

2. 調査内容

今回私は、ネットワークを用いてアンケートを実施した。以後このアンケートを『ソーシャルスタイル診断』とする。

調査：『ソーシャルスタイル診断』を実施した日によって、変化があるのかを確認するため、8月15日と9月15日と10月15日の一ヶ月ごとに計3回アンケートを行う。アンケート内容は、次のようなものである

- | |
|--|
| No.1 他の人達の意見が自分と違っている時は… <ul style="list-style-type: none">・その場の雰囲気を考えて合わせる。・自分の意見をはっきり言う。 No.2 自分は… <ul style="list-style-type: none">・あまり感情が表に出ない、ポーカフェイスだと言われる。・喜怒哀楽がはっきり顔に出る、感情がわかりやすいと言われる。 |
|--|

No.3 グループ内で何か発言を求められた場合には…

- ・まず、まわりの人の意見を聞いてから口を開く。
- ・自分から率先して意見を出す。

No.4 自分は…

- ・淡々とクールな話し方をする方だと思う。
- ・抑揚をつけ、感情を込めた話し方をする方だと思う。

No.5 人に何か注意される場合には…

- ・あまりストレートな言い方より、ソフトな言い方がいい。
- ・まわりくどい言い方より、単刀直入に言われた方がいい。

No.6 自分は…

- ・どちらかという、事実的側面を重視するタイプ。
- ・どちらかという、人の意見を重視するタイプ。

No.7 勝負事などの場合には…

- ・「争い事はあまり好きでない」という。
- ・ライバルが登場すると張り切る。

No.8 自分は…

- ・黙っていると、「何を考えているのかよくわからない」とよく言われる。
- ・黙っていても、「顔を見ているだけで何を考えているのかすぐわかる」と言われる。

No.9 興味があることで、リスクが伴う場合には…

- ・興味があることでも、リスクを計算して慎重に行動する。
- ・興味があれば多少のリスクはいとわず、行動を起こす。

No.10 自分の…

- ・第一印象は、キチンと礼儀正しい人と見られていると思う。
- ・第一印象は、カジュアルで親しみやすい人と見られていると思う。

No.11 相手が話すのを聞いていて…

- ・落ち着いたペースの話の方が心地よく感じる。
- ・速いテンポで進む話の方が心地よく感じる。

No.12 自分は…

- ・人から見てビジネスライクで、クールな雰囲気だと思う。
- ・人から見てアットホームで、あたたかい雰囲気だと思う。

No.13 何か結果を出さなければならない時には…

- ・丁寧に手順をたどって、結果を出すことが得意。
- ・ともかく早く結果を出すことが得意。

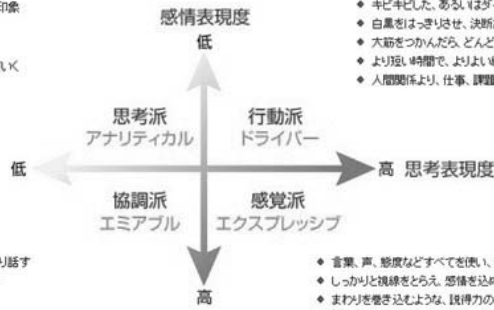
No.14 自分は…

- ・「仕事は仕事」と割り切って、黙々と仕事を進めていくタイプ。
- ・皆とのコミュニケーションを楽しみながら、賑やかに仕事をするタイプ。

『ソーシャルスタイル診断』ソフトは、このアンケートの結果を「思考表現度」と「感情表現度」を値（-100から100）として示し、この二つの数値を縦軸と横軸にとったマトリクスとして表現することで、人のパターンを大きく4つに分類する。ここでいう「思考表現度」とは、その人の考えや主張がどれくらい強いのか、又はどのくらい周りに影響されるかの度合いを表すもので1990年代にDr. Darid Merrillが提唱したものである。一方、「感情表現度」はその人の感情がどれくらい表現されているか、又は他の人の感情を理解していることを示す度合いを表すものである。以下に、診断ソフト開発会社の示す4つのソーシャルスタイルを示す。

- ◆ 感情を出さずに、種やかな声で、間を取りつつ、淡々と話す
- ◆ 身振り手振りはあまり使わず、視線もまですることが多い
- ◆ 論理的で、秩序だった話し方をする
- ◆ 冷静で、フォーマル、あるいはビジネスライクな印象
- ◆ 考え深く、慎重
- ◆ 細かいことも見落とさない
- ◆ 時間をかき、プロセスを大事にしてことを進めていく
- ◆ 人間関係より、仕事、課題に興味を示す

- ◆ 感情は出さないが、メリハリ、力強さのある話し方をする
- ◆ シュッカリアイコンタクトしながら話す
- ◆ 短めの文章で、はっきりと断定的に話す
- ◆ キビキビとした、あるいはダイナミックな印象
- ◆ 白黒をはっきりさせ、決断が速い
- ◆ 大筋をつかんだら、どんどん進めていく
- ◆ より短い時間で、よりよい結果を出そうとする
- ◆ 人間関係より、仕事、課題に興味を示す



- ◆ 声にも感情にも、種やかに感情をこぼせる
- ◆ 皆に目配りしながら、同意を得るように、ゆっくり話す
- ◆ 間、掛けるように、相手を待ちかかっているように話す
- ◆ 温和で、縁の下のか持ちという印象
- ◆ まわりの人の感情に気を配り、決断をためらう
- ◆ 皆を励まし、サポートすることが得意
- ◆ 怒り感のない、いい人間関係の中で、楽しくことを進める
- ◆ 仕事、課題に取りかかると前には、まず、人間関係を築く

- ◆ 言葉、声、態度などすべてを使い、豊かに主張し、感情を表現する
- ◆ シュッカリと視線をとらえ、感情を込めてアップテンポで話す
- ◆ まわりを巻き込むような、説得力のある話し方をする
- ◆ 明るく、自信があり、直断かつ直感的な人という印象
- ◆ 直感的に決断するので、即決断
- ◆ 皆をその気になせ、巻き込み、楽しませることが得意
- ◆ 細かいことにとらわれず、いっしょの中、楽しく、にぎやかにことを進める
- ◆ まずは、強い人間関係を築くことエネルギーをかける

3. 実験対象者

年齢(歳)	男(人)	女(人)
03から06	03	02
07から12	04	06
13から15	09	14
16から20	01	02
21から40	01	03
41から65	01	01
計	19	28

4. 調査結果

1回目(8月15日実施)

思考表現度(%)	感情表現度(%)	人数(人)
-100	-100	3
-100	70	1
-85	-15	3
-85	70	2
-70	40	1
-70	70	2
-40	-15	2
-40	40	3
-40	70	1
-40	100	2
15	-40	1
15	-15	7
15	15	3
15	40	3
15	70	1
15	100	1
40	-15	1
40	-30	1
40	-40	1
40	-15	1

40	40	2
40	70	2
40	100	1
70	-40	2
70	-15	1
70	40	1
100	70	1

2回目（9月15日実施）

思考表現度(%)	感情表現度(%)	人数(人)
-100	-100	1
-100	70	1
-85	-15	1
-85	70	3
-70	-15	5
-70	70	1
-40	-85	1
-40	-40	3
-40	15	1
-15	-40	1
-15	70	2
-15	100	1
15	-40	2
15	15	3
15	70	1
40	-85	1
40	15	2
40	70	2
70	-15	3
70	15	1
70	85	2
85	-40	1
85	-15	1
85	100	1
100	-100	1
100	15	3
100	100	2

3回目（10月15日実施）

思考表現度(%)	感情表現度(%)	人数(人)
-100	-100	3
-100	-85	2
-100	-15	2
-100	100	1
-85	-40	2
-85	70	1
-70	-15	1
-70	40	1
-70	85	1
-40	-100	2
-40	100	3
15	-15	1
15	70	2
40	-70	2

40	-15	1
40	85	2
70	-85	4
70	-15	1
70	15	2
70	40	4
85	-15	1
85	40	1
85	100	2
100	-100	1
100	-15	1
100	100	2

65歳のAさんは -40 100
70 -15
-15 -40
という結果だった

36歳のBさんは -40 70
-40 40
-70 100
という結果だった

3歳のCさんは 100 100
70 -15
-100 -85
という結果だった

4. 考察

年齢別の結果を見ると高齢者のAさん（65歳）は1回目が感情表現度-40%、思考表現度100%、2回目が70%と-15%だった。つまり、3日間でAさんは行動派から協調派へパターンが変わっている。幼児のCさん（3歳）は1回目100%、100%、2回目70%、-15%、3回目-100%、-85%だった。つまり、Cさんは感覚派から協調派へ行動パターンが変わっている。これに対して、壮年のBさん（36歳）は1回目-40%、70%、2回目-40%、70%、3回目-70%、100%と日を変えて常に行動パターンは行動派であった。

V まとめ

今回の研究を通して、人の感情がどういうものであるのかということは、感情には肯定的感情、否定的感情、意志的感情の3種類があり、その中でもいくつもの感情の種類がある。また、日を変えて実験を行うと、ほとんどの者の結果が変わった。よって、人の感情がどういうものであるかということは、その時その時で人の感情が変わるためどういうものであるかということは明確に証明とすることは難しいと私は考える。今後の実験で、人の感情のパターンを全て探し出しそのパターン一つ一つの感情への確実な対応の仕方を編み出し、その情報を世界に発信したいと考える。

VI 感想

感情は言葉では表しにくいものであるとわかった。この研究は大変難しいものだと思うが、時間をかけてでもする意味はあると思うので、今後さらに研究をしていきたいと思う。そして研究結果を私生活に生かしたい。

VII 参考文献

- 大江矩夫（2001）『人間存在論』 白川書院
- 繁榊算男（2011）『心理学ワールド』 社会法人日本心理学会
- 藤田哲也（1996）『記憶における自動的処理過程分離手続きをめぐる問題について』
京都大学教育学部紀要
- ソフィアヒューマンキャピタル株式会社（2001）『ソーシャルスタイル診断』
(kazupc.com/s-style/k/)